

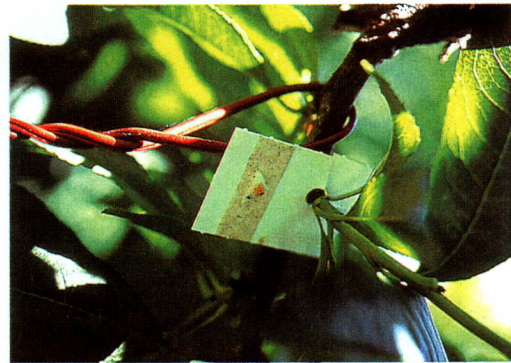
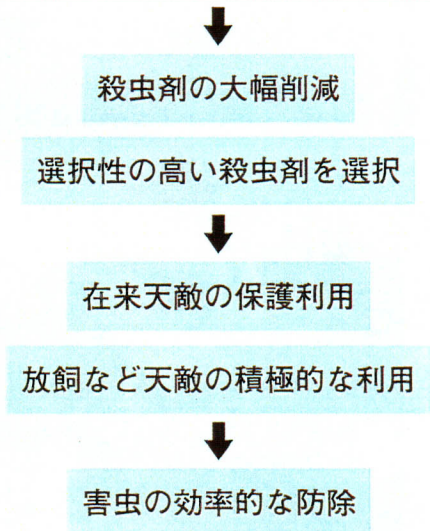
複合交信攪乱剤を利用した果樹の害虫防除技術

環境保全型農業を推進する一手法として、複数の主要害虫を防除できる複合交信攪乱剤（性フェロモン剤）や天敵を利用した新しい害虫管理技術の開発に取り組んでいます。

これまでの化学合成殺虫剤中心の防除は様々な弊害を引き起こし、特定害虫の異常発生や殺虫剤の効力低下による害虫の多発などが頻発して起きています。これらの現象は、農薬の過度の使用が天敵昆虫も殺してしまったためと言われています。

現在、これらの弊害をできるだけ緩和するため、農薬への依存度を低減し自然の抑止力を最大限利用する防除技術を開発しています。

複合交信攪乱剤を利用した害虫防除体系



複合交信攪乱剤設置状況（モモ）
ナミテントウの卵塊（天敵放飼試験）



ケナガカブリダニ成虫（体長約0.35mm）
ハダニ類（害虫）の天敵



ナミテントウ幼虫（体長約10mm）
アブラムシ類（害虫）の天敵